

提言に向けての主な論点について

1 未来づくり

<施策 寛容で持続可能な地域社会の構築>

- (1) 秋田へ就職した女性・若者が「活躍している」と当事者のみならず、県民も実感するためには、どのような取組が必要か。
- (2) 地域課題解決に取り組む若者のネットワーク化にはどのような取組が必要か。
- (3) 好きなこと（やりたいこと）をやって良いという心理的安全性を確保するためには、どのような取組が必要か。
- (4) ジェンダーギャップの解消に向けてどのような取組が必要か。
- (5) これまでの取組で構築してきた地域団体との関係を維持・深化させるためには、どのような仕組み・仕掛けが必要か。
- (6) 関係人口となるきっかけとして、どんなアプローチが有効か。
- (7) 多様化・複雑化する地域課題に対応するため、NPO や企業、県民等による協働の取組を活性化するにはどのような取組が必要か。

項 目	想定される取組
	<u>第 1 回部会の意見等</u>
寛容で多様性に満ちたあきたづくり	・若者や女性をはじめ多様な意見が尊重される社会づくり ・学校教育を通じた S D G s の普及啓発 ・誰でも、どこでも、自分らしく生きられる男女共同参画の推進
	・<u>地域の中に様々な生き方をしている方が多く存在すること、多種多様な働き方や生き方があるということへの理解を進めるべき。</u> ・<u>県が皆の自己実現を支えるんだというメッセージを出すべきではないか。</u>
誰もが活躍・挑戦できる環境づくり	・県民一体となった青少年健全育成の取組の推進 ・社会的自立に困難を有する若者の社会的自立に向けた支援 ・若者の意欲や斬新なアイデアを地域活性化につなげる機会の創出

	・意思決定過程への参画の拡大などあらゆる分野での女性活躍の推進 ・<u>地域課題解決に取り組む若者のネットワーク化を図る前に、若者が地域と連携できるような土台作りが必要ではないか。</u> ・<u>新しいチャレンジを実施する受入地域側にクッション材となりうる団体等を確保し、地域住民や地域事業者の理解や連携を図っていくことが大事である。</u> ・<u>団体等は、地域特性なども共有しながら新しいチャレンジを実施する人をサポートする必要があるのではないか。</u> ・<u>経験談などの情報提供を共有できる場や一時的なイベントを創出することにより、気運を醸成していくべき。</u>
持続可能な地域づくり	・地域コミュニティの新たな担い手への支援 ・多様な主体による協働の推進 ・コンパクトなまちづくりに取り組む市町への支援 ・まちづくりに関する情報の整備・活用への支援 ・<u>地域団体の意欲を確認したうえで、ステージ分けを行い、集落を巻き込みながら伴走支援を実施するのはどうか。</u>

<施策 未来を切り拓く秋田移住・就職の促進>

- (1) 就職先の仕事内容だけでなく、企業の雰囲気、やりがい、キャリアパス、福利厚生、ワークライフバランスといった「企業の魅力」を言語化し、効果的に発信するにはどのような手法が必要か。
- (2) Aターン希望者が求める仕事内容（職種、待遇、働き方など）と県内企業の求人と mismatches を解消するために必要なことは何か。
- (3) 移住への興味・関心が深まるための、関心や検討の段階に応じた取組として、どのようなことが考えられるか。
- (4) 移住後の生活に関する具体的な不安を解消する情報を提供するための効果的な手法は何か。

項 目	想定される主な取組
	<u>第1回部会のご意見等</u>
首都圏からの移住の加速	・安全・安心な生活や充実した子育て環境、多様な働き方の情報発信 ・地方移住関心・潜在層等に対するアプローチの強化 ・県内就職に向けたマッチングへの支援 ・移住世帯が快適に生活できる居住環境づくりへの支援 ・地域活性化に向けた関係人口創出の拡大 ・二地域居住拡大への支援
	<u>・Aターン希望者が求める仕事内容と県内企業の求人の mismatches を解消するために、新卒であれば有償インターンで透明化を図り、中途であれば有給を活用して働ける支援制度を整え、旅費交通費などを支援する仕組みはどうか。</u>
	<u>・県内各地域で移住者のサポートをしてくれるNPO法人や一般社団法人が増えており、そうした団体の支援を手厚くしていく必要があるのではないか。</u>
	<u>・積極的に秋田を訪れていただくための制度を充実化させ、住みよさにフォーカスを充てて、事業を構築するのはどうか。</u>
	<u>・自己実現を軸にしながら、地域での活動を楽しめる場づくりを行い、ただ一時的に楽しむだけの交流人口や地</u>

	<u>域課題の解決を前提とする従来の関係人口の枠を超えた、新たな関わり方を体現する存在が必要ではないか。</u>
若者の県内定着・回帰の強化	・大学生等を対象とした個別最適化による就職支援の深化 ・将来の県内就職につなげる多様な視点からの魅力発信とキャリア形成支援 ・県内就職者に対する経済的支援とデータに基づいた戦略的な定住・回帰施策の推進 ・就職支援員等による高校生に対する就職・職場定着への支援 ・若年女性に対する秋田暮らしの情報提供や意識啓発 <u>・秋田から出て行ってしまった人との接点を維持し続けるため、データベースなどの情報を構築すべき。</u> <u>・子どもの絶対数が少なくなっている今だからこそ、秋田に残りたいという気持ちを拾い上げていくことが有効ではないか。</u>
デジタルを活用した移住・定住対策の強化	・ターゲットを明確にした県の魅力発信 ・就職活動の変化に合わせた就職情報サイトの改善・強化 ・(再掲) 県内就職者に対する経済的支援とデータに基づいた戦略的な定住・回帰施策の推進 ・(再掲) 若年女性に対する秋田暮らしの情報提供や意識啓発

＜施策 出会いから子育てまで希望がもてる社会の実現＞

- (1) 結婚を希望する人を、各イベントへの参加やあきた結婚支援センターへの入会等に導くために、どんな周知・取組が必要か。
- (2) 結婚・出産・子育てに前向きな気運醸成のため、どのような取組が考えられるか。
- (3) 子育て支援の更なる充実のためにどのような取組が考えられるか。
- (4) 若い世代が結婚への希望を叶えるためには、どのような取組・支援が必要か。

項 目	想定される取組
	<u>第1回部会の意見等</u>
結婚に対する気運の醸成と支援の強化	・ライフプラン等を学び考える機会の提供 ・結婚・出産・子育てに関する前向きな意識の醸成 ・あきた結婚支援センター等によるきめ細かな支援 <u>・子供を持つ女性に、伴走支援で相談対応したり、気軽に子どもを預けられる、あるいは息抜きができるようなサービスやイベントを充実させるべきではないか。</u> <u>・出会いを求めている人については、マーケティングを実施し、どういう出会いの場を求めているのか、どうしたいのかということをヒアリングしながら、考えていくべき。</u> <u>・出会いに関しては、婚活色を強くするのではなく、自然な出会いの機会の提供が重要ではないか。</u>
安心して出産できる環境づくり	・妊娠・出産について抱える不安や悩み、経済的負担の解消 ・産後も安心して子育てできる環境の整備 ・ライフプランに適した健康管理の意識の醸成 ・安全な周産期医療を提供する体制の構築 <u>・出産に関する保険適用など、自治体の助成や無痛分娩について考えてもらいたい。</u>
子育てを社会全体で支える体制づくり	・幼児教育・保育における地域の実情や多様な保育ニーズに応じた支援 ・安心して子育てできる経済的支援の充実 ・子育て当事者が協力し合う共育の推進 <u>・子どもを預けることに対し、オープンに受け入れてくれる場があるということを知る機会を増やしていくべき</u>

	<u>ではないか。</u> <u>・近くにサポート体制がない人に対する子育て支援を考</u> <u>えてもらいたい。</u>
--	--

8 環境・くらし

<施策1 カーボンニュートラルの実現を目指す地域社会の形成>

- (1) 日常生活で脱炭素型ライフスタイルを実践してもらうための取組において、どのような工夫が必要か。
- (2) 国のGXの推進の方針を踏まえ、県内事業者が脱炭素経営に着手するためには、どのような働きかけが有効か。
- (3) 県民による3R（リデュース、リユース、リサイクル）を進めるためには、更にもどのような取組が必要か。
- (4) 食品廃棄物の資源循環を更に進めるため、事業者や市町村に対してどのような働きかけが有効か。

項 目	想定される取組
	<u>第1回部会の意見等</u>
県民の行動変容や事業者の取組による地域脱炭素化の推進	・快適で豊かな脱炭素型ライフスタイルの転換につながる情報発信や効果の「見える化」 ・関係機関等と連携した脱炭素型の地域づくりへの支援 ・<u>秋田県の再生可能エネルギーによる自給率は、国内でもトップクラスであることを県民にも理解してもらい、秋田の強みだということを共通認識とすべきではないか。</u>
廃棄物の発生抑制と資源循環の推進	・スタートアップ創出・成長に向けた支援 ・起業に要する経費の支援 ・県民・事業者・行政による3Rの取組の推進 ・<u>環境に特化した仕事を中小企業の立ち上げスタートアップ団体等に支援していただくような取組をすべきではないか。</u> ・<u>生ごみをたい肥として処理する機械も今はあるので、そうした機器の普及も良いのではないか。</u>